

NPO 法人マリンネットワーク

2024 年度 総会資料(案)

日時 2024 年 5 月 11 日 (土) 14:00~14:30

会場 TKP ガーデンシティ札幌駅前

NPO法人 マリンネットワーク

2024 年度総会 次第

日時 2024 年 5 月 11 日（土）14:00～14:30

場所 TKP ガーデンシティ札幌駅前

- 1 開 会
- 2 総会定足数報告
- 3 議長選出
- 4 総会
 - 1) 総会開会宣言
 - 2) 議事録署名者選任
 - 3) 議案審議
 - 第 1 号議案 2023 年度事業報告について
 - 第 2 号議案 2023 年度収支決算報告並びに監査報告について
 - 第 3 号議案 2024 年度事業計画(案)について
 - 第 4 号議案 2024 年度収支予算(案)について
 - 第 5 号議案 役員を選任(案)について
 - 4) 総会閉会宣言
- 5 閉 会

第1号議案

2022年度 事業報告

■NPO 法人マリネットワーク 2023年度 総会・講演会

1. 日時：2023年5月13日（土）TKPガーデンシティ札幌駅前

2. 総会 14:00～14:20（正会員対象）

正会員数総数 90名（個人65，法人25）のうち，出席者は61名（会場21，委任書40）で過半数以上に達しているため，総会は成立しました。第1号議案～第5号議案まですべて承認されました。

法人設立当初から理事を務めてくださった藤井賢彦理事が退任され，新たに松尾優子理事が就任いたしました。また，会場では設立10周年の節目に実施した記念座談会の内容を冊子にまとめた「NPO法人マリネットワーク設立10周年記念座談会ー将来の北海道の漁業と地域を語るー」を配布しました。なお，2022年度の活動計算書と事業報告書は，法人概要に掲載しています。

3. 講演会 14:30～15:45

講演①「北海道マリビジョン改定の方向性と最近の話題について」

講師：北海道開発局農業水産部水産課課長 的野博行氏

講演②「地球温暖化・海洋酸性化・貧酸素化が海洋生態系に及ぼす影響」

講師：東京大学大気海洋研究所大槌沿岸センター教授（前北海道大学地球環境科学研究院准教授）藤井賢彦氏

講演会には，32名の方にご参加いただきました。



的野講師（北海道開発局農業水産部水産課課長）

4. 交流会 16:00~17:30

28名にご参加いただき開催しました。



伊藤部長（歯舞漁業協同組合）



赤澤部長（苫小牧漁業協同組合）



山口副局長（北海道留萌振興局）



高谷副理事長

■情報収集及び調査研究

1. 委託事業

(1) 北海道マリンビジョン21促進期成会 総会・講演会報告書作成(受注金額180,000円(内税))

2. 「みなとオアシス Sea 級グルメ in 沼津」視察

2023年10月28～29日の2日間にわかり開催され、道内から6港(わかかない、りしりとう・くつがた、苫小牧、函館、もんべつ、室蘭)、全体で34港の出店がありました。会場は、身動きが取れないほどこのブースでも長い列ができており、優勝はみなとオアシスもんべつの「ホタテステーキ」でした。



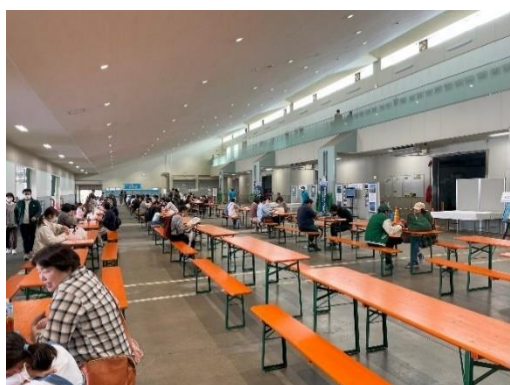
会場全体



みなとオアシス函館(いかめし)

来場して良いと思った点

- ① 飲食スペースとして閉鎖型の衛生管理型市場(魚市場 INO)が開放されており、来場者への配慮が見られた。
- ② 沼津駅→沼津港の路線バスが無料
- ③ 駐車場と会場間は、シャトルバス、シャトル船の運航により利便性が良かった
- ④ 沼津港大型展望水門「びゅうお」の展望デッキを無料開放
- ⑤ Sea 級グルメ会場と地産物産ブースや沼津港飲食店街との連携により、イベントに一体感があった
- ⑥ 沼津駅周辺エリアを中心に街バルが夕方開催されており、双方を楽しむことができた



魚市場 INO (イーノ)



沼津港大型展望水門「びゅうお」

■漁村地域の担い手支援に係る事業

第18回マリンナレッジサークル（漁村勉強会） in 南かやべ を開催しましたのでご報告します。
参加者約80名のうち、地元の漁業関係者約30名の参加をいただきました。

（各講師の講演資料等は<https://www.marine-network.info/>からダウンロード頂けます）

1. 講演会

日時：2024年3月9日（土） 14:30～17:00

会場：南茅部総合センター 講堂（函館市川汲町1520番地4）

①開会挨拶 南かやべを取り巻く環境 片石 温美（NPO法人マリンネットワーク理事長）

②講演1 「北海道開発局のブルーカーボンの取り組み」

早川 哲也氏（北海道開発局港湾空港部港湾計画課長）

③講演2 「フードライターから見た、南茅部の浜の魅力と課題」

小西 由稀氏（フードライター）

④意見交換

⑤閉会挨拶 高谷 大喜（NPO法人マリンネットワーク副理事長）



片石理事長のあいさつの後、早川講師からは、北海道開発局でのブルーカーボンの取組例として、釧路港島防波堤背後盛土上に創出した藻場の状況、CO2吸収量の算定結果をご紹介いただき、藻場の吸収係数が森林の2.4倍あったことを報告していただきました。更に、Jブルークレジットに認証された、えりも町、利尻富士町のブルーカーボン事業における調査、CO2吸収量の算定方法について紹介いただきました。小西講師からは、真昆布の魅力とともに昆布を取り巻く世界的傾向として、各国の料理人たちが昆布を含むUMAMIを認知し、料理にDASHIを使っていること、スーパーフードとして昆布（海藻）が注目され、活用が広がっていることをお話いただきました。最後に、真昆布産地の皆さんに向け「昆布pride」を持つと、エールが送られました。

2氏の講演の後、片石理事長と高谷副理事長がコーディネーターとなり、短い時間ではありましたが様々な意見交換がなされ、主な意見は以下の通りです。

①南かやべ漁協大船青年部の高谷部長から早川講師へブルーカーボンに取り組む体制について質問
→早川講師からえりもの取組事例では自治体や漁業者がそれぞれの役割を果たし、地域で一体的に取り組んだこと、そして関心を持つ企業も関わって取組を進めることでクレジット販売にも有利になる可能性があることなどお話しいただきました。

②株式会社五島軒の若山代表取締役社長からコメント「製造業が昆布の消費拡大に関わっていく役割があると思う。通常、カレーは牛のブイヨンから作られるが、遺愛高校の学生から地元の食材を使ったカ

レーを作らないのかと提案をうけ、昆布だしで作ってみたところ、美味しいうえにコストも低減できることがわかった」と経験をお話してくださいました

③南かやべ漁協中村専務からは、「真昆布資源の増加にクレジットが活用できると思うので、函館市と連携を取りながら取組みを始めている」ことをご紹介いただきました



早川講師



小西講師



南かやべ漁協大船製網部長 高谷氏



(株)五島軒 代表取締役社長 若山氏



南かやべ漁協専務理事 中村氏



元北海道大学総長 佐伯氏



渡島総合振興局 松本氏



北日本港湾コンサルタント 多田氏



北海道ガス 須賀様



函館市南茅部支所長 池田氏



←NPO法人マリネットワーカー副理事長
南かやべ漁業協同組合理事 高谷氏

元北大総長 佐伯先生：ブルーカーボンの取組が素晴らしいものであるということを示すために、効果をしっかりと出す、そのためのデータを蓄積することが重要だとの進言をいただきました。そのほか、北ガス、建設コンサルタントの方などからクレジットが南かやべのコンブ生産に結び付き、最終的にはコンブ生産に必要な施設の整備にもつなげていけるといい、など幅広い意見がありました。

最後に、函館市南茅部支所長の池田様より、ブルーカーボンに取り組むこれまでの経緯や昆布に関する調査研究など現状とともに、函館市において新年度からブルーカーボンの調査がスタートするなど、地域を挙げて取り組んでいきたい旨のお話をいただき、勉強会を締めくくりました。終わりに、高谷副理事長から参加して下さった皆様へのお礼のあいさつが述べられました。

2. 懇親会会場 ホテル函館ひろめ荘

南茅部支所長の池田様より、開会と乾杯のご挨拶をいただきました。25名の参加をいただき、交流がなされました。



3. 現地見学会

日時 2024年3月10日(日) 10:00~12:00

見学場所 縄文文化交流センター、昆布加工施設



計画では船上からコンブ養殖場を見学させていただく予定でしたが、あいにく風が強く安全を考慮して加工施設の見学に変更しました。
養殖コンブの生産

高谷副理事長の昆布加工施設

最後に、今回のマリナレ（漁村勉強会）を開催するにあたり、函館市南茅部支所様、ひろめ荘様、縄文文化交流センター様、地元の高谷副理事長、折谷理事ほか、マリンネットワーク会員の皆様には多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。

南かやべの豊かな海の恵みを守り、持続可能な未来へと繋げていくためには、地域の人たちがその価値を理解し、大切に育んでいくことが重要です。

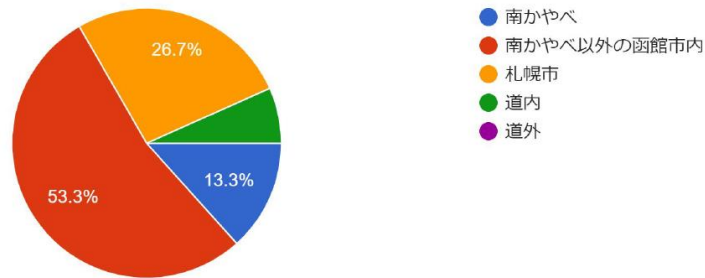
また循環型地域として、コンブが果たす役割も見逃せません。昆布は私たちの生活に欠かせない食材であり、地域の伝統や文化を象徴する存在でもあります。そして、漁業がなりわいであるとともに、ウニなど水産物の生息にも貢献しています。

今回、漁業関係の方が大勢来てくださいました。この漁村勉強会が、地域の人たちにとってコンブや南茅部の水産物が持つ可能性を知り、新たな視点を持ち、地域の発展にどう生かしていくか考えるきっかけになって、南かやべにおけるブルーカーボンの取組の推進にお役に立つことができれば幸いです。

次ページ以降には、勉強会参加者を対象にアンケート調査を実施した結果をまとめました。

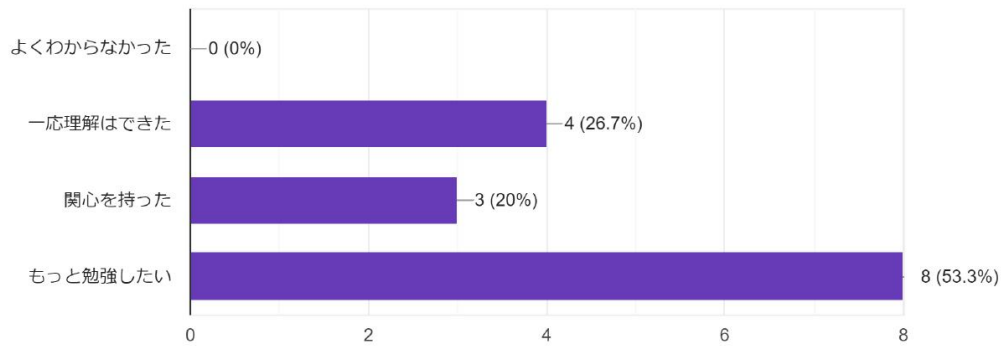
Q1 居住地

15件の回答



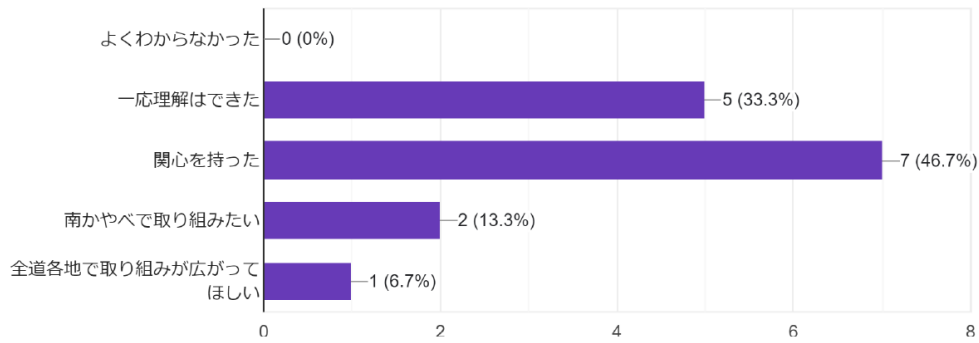
Q2 コンブのブルーカーボン機能について

15件の回答



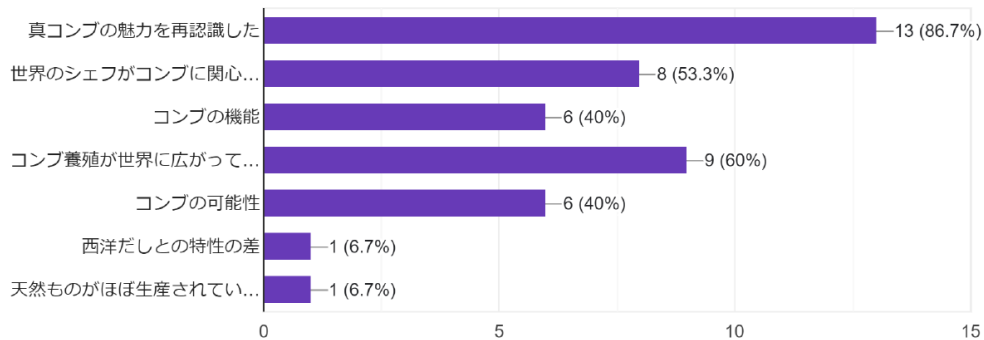
Q3 ブルーカーボンクレジットについて

15件の回答



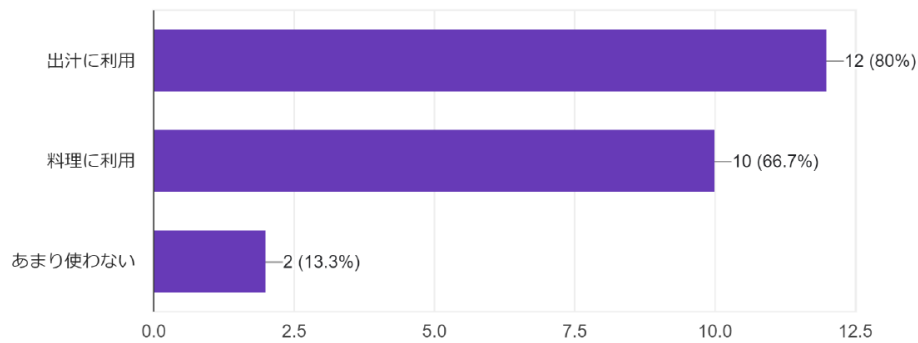
Q4 南かやべのコンブについて新たな気付きとして印象に残ったこと（複数回答可）

15件の回答



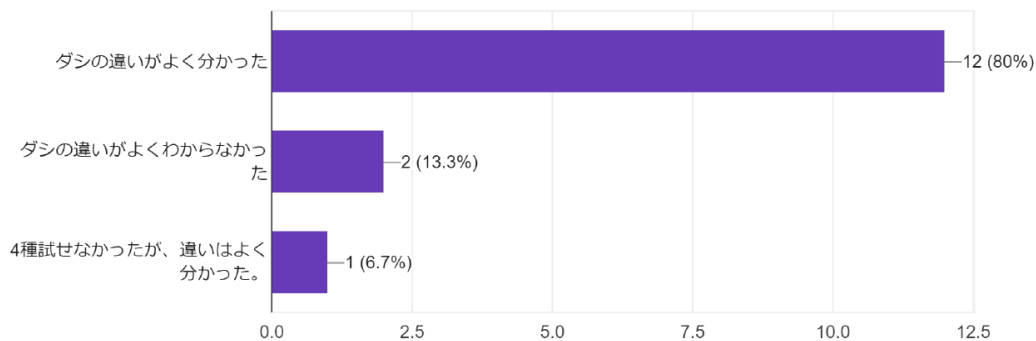
Q5 家でのコンブ利用について（複数回答可）

15件の回答



Q6 昆布ダシ4種飲みくらべについて（試飲した人が回答）

15件の回答



Q7 南かやべのコンブ漁業の課題について（自由回答）

- 環境に合わせたマコンブ漁業の見直しや改善の検討
- これからも美味しい昆布を作ってください！
- 天然コンブの減少に伴う、母藻の供給減が課題と感じます
- 生産者自らのSNS発信
- 今後も継続して取れるのか、持続可能性
- 安定した昆布量確保のための支援
- コンブの魅力を再認識しました
- 旧南茅部人口及び漁協組合員数の減少が続いていること
- 養殖作業の労働力を確保できなければ、結果的に漁業者の減少につながる。
また、これだけ真昆布の重要性が高まっているのであれば、生産に見合った価格というものを業界全体で見直す必要があるのでは？
- 天然コンブが昔みたいに獲れるよう漁業者、水産関係研究機関、地域が一丸となって協力する事が必要。

第2号議案

2023年度 NPO 法人に関わる収支決算書

会計期間：2023年4月1日～2024年3月31日

NPO 法人マリンネットワーク

単位：円

科目	科目	R5年度予算	R5年度決算	備考
1. 収入の部		1,120,014	979,016	
1. 会費収入		720,000	682,000	
	個人会員	240,000	232,000	正65人、賛21人(R6.3.31現在)
	法人会員	480,000	450,000	正42口、賛3口(R6.3.31現在)
2. 事業収入		200,000	297,000	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	20,000	0	
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	0	
	漁村地域の担い手支援に係る事業	0	0	
	情報収集及び調査研究	180,000	180,000	MV期成会報告書 180,000
	その他	0	117,000	総会交流会費
3. 預貯金利子		14	16	
4. 寄付金等収		0	0	
5. 補助金等収		200,000	0	
6. 雑収入		0	0	
2. 支出の部		1,120,014	1,537,690	
1. 事業費		860,000	1,235,218	
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	100,000	0	会議費15,190, 旅費交通費199,505, 支払手数料165
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	300,000	0	
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	10,000	566,840	外注費34,760, 交際費5,040, 会議費18,970, 旅費交通費472,540, 通信費200, 支払手数料330, 保険料5,000, 謝金30,000
	④情報収集及び調査研究	150,000	155,343	外注費99,523, 旅費交通費50,540, 消耗品4,950, 支払手数料330
	⑤その他	300,000	513,035	外注費175,395, 総会旅費122,000円, 会議費212,300円, 荷造運賃1,120, 消耗品790, 支払手数料1,430
2. 一般管理費		260,014	302,472	
	給料手当	10,000		
	消耗品	30,000	11,372	
	通信費	30,000	28,260	
	外注費	20,000		
	新聞図書費	70,000	69,960	
	会議費	30,000	15,190	
	交際費	0		
	旅費交通費	50,000	173,685	
	租税公課	2,000		
	支払手数料	5,000	1,705	
	その他	13,014	2,300	荷造運賃
当期収支差額		0	-558,674	
前期繰越金		2,196,701	2,196,701	
当期資産合計		2,196,701	1,638,027	

監查報告

第3号議案

2025年度事業計画（案）

■漁村地域とそれ以外との交流促進事業

札幌や漁村で開催（漁業者、研究者、民間企業、行政等の多様な人たちが集まり、地域の課題や様々な対策等について交流会・講演会など小規模な情報交換サロン）

- ・札幌で1回程度実施

■持続可能な漁村地域づくりに関する事業

食育活動、都市漁村交流、消費者と生産者の交流を地域と協働で実施（地域や他の団体等と一緒に）

■漁村地域の担い手支援に係る事業

マリンネットワークメンバーの研究や仕事→地域に紹介

（マリンネットワークから講師の派遣や紹介、地域と協働で勉強会企画、実施）

- ・漁村で1回実施

■情報収集及び調査研究

- ・北海道マリンビジョン21促進期成会 総会・講演会（2024年7月1日）資料作成

■その他（総会）

- ・2024年度NPO法人マリンネットワーク総会・講演会

日時：2024年5月11日（土）TKPガーデンシティ札幌駅前

（アパホテルTKP札幌駅前内）

総会： 14:00～14:30

講演会：15:00～17:00「令和6年能登半島地震について」

- ・話題提供 ①遠藤仁彦氏 60分（質疑応答含む）
NPO法人マリンネットワーク理事（国土交通省北陸地方整備局長）
- ②片石圭介氏 30分（質疑応答含む）
水産庁漁港漁場整備部防災漁村課課長補佐
- ・意見交換：これからの防災・減災対策について

第4号議案

2024年度 NPO法人活動に係わる収支予算計画書(案)

会計期間：2024年4月1日～2025年3月31日

NPO法人マリンネットワーク

単位：円

科目	科目	R5年度決算	R6年度予算	備考
1. 収入の部		979,016	1,010,020	
1. 会費収入		682,000	690,000	
	個人会員	232,000	240,000	正60人、賛21人(R6.3.31現在)
	法人会員	450,000	450,000	正42口、賛3口(R6.3.31現在)
2. 事業収入		297,000	320,000	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	0	20,000	
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	0	
	漁村地域の担い手支援に係る事業	0	0	
	情報収集及び調査研究	180,000	180,000	MV期成会報告書 180,000
	その他	117,000	120,000	総会交流会費
3. 預貯金利子		16	20	
4. 寄付金等収		0	0	
5. 補助金等収		0	0	
6. 雑収入		0	0	
2. 支出の部		1,537,690	1,010,020	
1. 事業費		1,235,218	795,000	
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	0	120,000	
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	50,000	
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	566,840	200,000	
	④情報収集及び調査研究	155,343	150,000	
	⑤その他	513,035	275,000	
2. 一般管理費		302,472	215,020	
	給料手当			
	消耗品	11,372	12,000	
	通信費	28,260	28,000	
	外注費			
	新聞図書費	69,960	69,960	
	会議費	15,190		
	交際費			
	旅費交通費	173,685	100,000	
	租税公課			
	支払手数料	1,705	1,500	
	その他	2,300	3,560	荷造運賃
当期収支差額		-558,674	0	
前期繰越金		2,196,701	1,638,027	
当期資産合計		1,638,027	1,638,027	

第5号議案

役員を選任（案）について

1. 提案理由

定款第14条及び23条に基づき、役員任期満了にあたり、理事1名が退任し、新任の理事1名の選任について、総会で決議する必要がある。

2. 提案内容

役員候補者名簿は以下の通りです。

理事候補者（1名）

石本竜大氏：北海道水産林務部森林海洋環境局森林海洋環境課 海洋環境係主幹

(参考)

退任理事(1名)

近藤将基氏：北海道水産林務部水産局長

役員体制(案)

理事長	再任	片石 温美
副理事長	再任	渡部 靖憲
副理事長	再任	高谷 大喜
理事	再任	遠藤 仁彦
理事	再任	折谷 久美子
理事	再任	笹島 隆彦
理事	再任	松尾 優子
理事	退任	近藤 将基
	新任	石本 竜大
監事	再任	小室 裕一
	再任	高須賀 茂之